

工学部国際連携 サマープログラム 2012 無事終了！

今年で5回目を迎えた工学部国際連携サマープログラム。今年7月30日（月）から8月12日（日）までの2週間にわたり開催され、タイ・マレーシア・韓国・中国と、これまでで最も多い4か国7校の学生を迎え、本学の学生と共に熱い時間を過ごしました。

今回、参加した海外の協定校は、タイのラジャマンガラ工科大学、マレーシアのマラ工科大学、韓国の漢陽大学、中国の河南理工大学、吉林化工学院、大連理工大学、東北電力大学の7校で、計12名の学生が参加しました。山形大学工学部・理工学研究科からは、13名の学生が参加し、海外協定校生と本学部生からなる混合グループ活動を多く実施しました。期間中、5か国の学生が共通に使える言語は英語ということで、日常の使用言語は英語が用いられました。最初はぎこちなかった意思疎通も次第に打ち解け、文化・習慣・考え方の相違点・共通点を肌で感じていったようです。

期間中は、専門講義や研究室訪問、日本語授業、米沢地域でのホームステイ、日本文化体験等さまざまな活動がありましたが、特に、英語による専攻別専門の講義や研究室訪問では、最先端の研究内容の説明に皆、熱心に耳を傾け、積極的に質問をしていました。

また、今回はフィールドワークとして、東日本大震災で被害を受けた宮城県東松島市を一泊二日で訪れ、津波で被災した方々や、福島原子力発電所近くに家があり、避難を余儀なくされた方々に直接お話を聞く機会を得ました。科学技術を学ぶ者として災害をどのようにとらえたらよいのか、皆、真剣に話を聞き、討論を行ないました。参加学生がこの体験を通して学んだことは、最終日のポスター発表でホームステイでお世話になった方々や山大生・関係教職員を前に発表され、活発な意見交換がなされました。

海外協定校の学生からは、「将来、山形大学へ留学したい」という声が多く聞かれ、その実現に期待したいところです。

実施にあたり、社団法人米沢工業会・山形大学工学部後援会をはじめ、多くの皆様のご支援・ご協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げます。

協定校生 12名



英語での専門講義



研究室見学



フィールドワーク 被災地訪問



タイ・中国・韓国・日本の混合グループ



ポスター発表

